



東京経済大学ニュース

Vol.10

東京経済大学 Web サイト: <http://www.tku.ac.jp/>

Contents

特集 1

学生相談室開室 50 周年

学生に寄り添って 50 年 いま大学に「学生相談室」が必要な理由

特集 2

ゼミする東経大

学生による研究活動の成果報告

- ・第 13 回日銀グランプリ決勝大会で敢闘賞を受賞
- ・第 14 回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会で奨励賞を受賞
- ・多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2017 で優秀賞獲得
- ・プロネクサス懸賞論文で金ゼミ生が優秀賞受賞

東経大インフォメーション

- Information 1 R&I「学校法人格付」東京経済大学は「A+」を獲得
- Information 2 創立 120 周年記念サイト開設
- Information 3 会計プロフェッショナルプログラム合格状況速報
- Information 4 東京経済大学で「高校選抜卓球大会 in 多摩」を開催
- Information 5 コミュニケーション学研究科修了生の著書が広報学会賞を受賞
- Information 6 スポーツ界で活躍する卒業生たち
- Information 7 大倉記念学芸振興会・芸術公演開催

特集 1

学生相談室開室 50 周年

学生に寄り添って 50 年 いま大学に「学生相談室」が必要な理由

2020 年に創立 120 周年を迎える本学は、教学ビジョン「東経大チャレンジ 2020」を掲げ、「エデュケーション」「キャリア」「サポート」「キャンパス」と 4 つのクオリティをそれぞれ向上させると共に、学生の能力向上に努めています。

「サポート・クオリティ」の中でも重要な役割を担う学生相談室は、2017 年度で開室 50 周年を迎えました。このところ度々報道で取り上げられているように、相談室は学生たちが安心して学生生活を送るために、非常に重要な意味を持っています。

臨床心理士スズキヨシコの鈴木佳子学生相談室課長へのインタビューを通じて、学生相談室の 50 年を振り返り、今日の大学における学生相談ひものあり方を紐解きます。



学生相談室課長 鈴木 佳子(左)
専任職員 臨床心理士 福原 俊太郎(右)
フクハラ シュンタロウ

組織化され充実した支援体制が、安心できる学生生活を支える

学生相談室は、専任教員の相談担当者（兼任）6 名と専任職員で臨床心理士の 2 名を配置、それに加えて嘱託の精神科医 1 名、カウンセラー 2 名、受付事務 1 名の計 12 名で運営。学生相談専用の 6 つの面接室や学生同士が情報交換できるサロン（談話室）も設置されています。

この相談室は学生生活を支援する学生支援部に属しながらも、プライバシーを守るため、独立したセクションとして機能しており、相談の現場を取り仕切る責任者を臨床心理士としていることも大きな特長です。



サロン(談話室)



学生相談専用の面談室



高等教育機関に求められた自らの成長を手助けする場

1966 年、東京大学・京都大学・長崎大学・島根大学の 4 国立大学に、学生相談対応窓口を含む「保健管理センター」が設置されました。



本学の学生相談室は、その翌年 1967 年 5 月に開室されています。その数年前から、課題として「学生の精神衛生」や学費・生活費などの「経済問題」に関する相談業務の組織化やカウンセラーの配置などに取組み、学生生活を支援する学生委員会を中心に素案を作成、準備を重ねておりました。

学生が大人への過渡期において抱く「不満」や「不信」の気持ちなどを受け止める制度も有意義なものと考えたことが開設の大きな理由のひとつに挙げられます。

カウンセラーの知識・経験を持った専任職員を常駐させることを当初から検討していましたが、実現したのは 2000 年以降。それまでは専任教員が持ち回りで学生の相談に対応していました。

相談業務の分担で、より心理面に特化した相談体制を整備

開室以来、学業や進路をはじめプライベートな問題に至るまで、学生が抱えうるさまざまな事由の相談に対応しており、ここ十数年のべ人数の利用者数でみると、全学生の半数以上がこの相談室を利用している状況が続いています。

以前は、授業が始まる 4～5 月にかけての利用が多く、相談内容も学習や履修に関するものが主でしたが、カウンセラーが常駐した 2000 年以降は、より心理的な相談が増加しました。

同時に学習に関する相談のために 2007 年に学習センターが開設され、キャリアセンターにキャリアカウンセラーが配置されました。学内の各セクションでの相談機能が充実するとともに、学生相談室での相談が心理面に特化される傾向が強まりました。また 2013 年には学生相談室がセクションとして独立。その後、専任の臨床心理士を 2 名体制に強化。また面接室も増やし、学生たちがさらに足を運びやすい環境を整えました。

このような取り組みの成果で、本学学生相談室の 2016 年度利用率は 6.3%となりました。学生数 1 万人以下の大学における平均利用率 3.0%（日本学生相談学会 2016 年度調査による）と比較して、よく機能しているといえます。学生に寄り添ったセクションとなるよう改善を重ね、人材と場所を整えて内容の濃い対応が可能になってこそ得られた数字です。

学生相談室 50 年の歩み

年月等	東経大学生相談室の歩み 他
1966 年	4 国立大学(東京大学・京都大学・長崎大学・島根大学)に学生相談対応窓口を含む「保健管理センター」が設置される。
1967 年以前	東京経済大学 学生相談室開設へ向け、学生委員会が中心となり素案作成。準備進む。
1967 年 5 月	(学生課に)学生相談室開設。専任教員が持ち回りで学生相談に対応を開始。
2000 年以降	学生相談室にカウンセラー常駐体制へ ※学生から心理面相談増加。
2007 年	学生相談室は学生相談に機能特化。 ※学習面については学習センターが分離・独立開設。 ※就職進路についてはキャリアセンターにキャリアカウンセラーを配置し対応へ。
2013 年	学生相談室が(学生課から)独立。その後、専任の臨床心理士を 2 名体制に強化。
2017 年	学生相談室開室 50 周年。

※全学生の半数以上(のべ人数)が学生相談室を利用している状況が継続。

※日本学生相談学会 2016 年度調査 2016 年度利用率本学 6.3%。学生数 1 万人以下の大学における平均 3.0%

学生の悩みは、時代を経ても変わらない

長年(四半世紀)の相談経験を振り返ると、広い意味での「人間関係」についての相談が多いことに気づきます。そこには自分自身との向き合い方も含まれますが、現代の学生たちは自分を表に出せず期待された役



特集 2

ゼミする東経大

学生による研究活動の成果報告

本学は2020年の創立120周年に向け、教学ビジョン「東経大チャレンジ2020」を策定し、4年間で学生たちの潜在能力を最大限に引き出すべく教育研究活動に取り組んでいます。

学生たちは本学の特長のひとつでもあるゼミや少人数の実践的教育を行う授業を通じて、外部コンテスト等に参加し、さまざまな賞を受賞するなど成果を上げています。

第13回 日銀グランプリ決勝大会で敢闘賞を受賞

全国の大学生を対象として、日本銀行が主催している経済・金融分野の小論文・プレゼンテーションコンテスト「第13回 日銀グランプリ ～キャンパスからの提言～」において、経済学部イシカワマサヤの石川雅也ゼミナールが敢闘賞を受賞しました。

全国39の大学から寄せられた応募作112編のうち、石川ゼミを含む5チームが書類審査を通過。石川ゼミは「プレミアム・インフラ・プロジェクトの推奨 ～多様性が生む経済成長の追い風～」と題して、老朽化したインフラ設備のリニューアルに伴い、付加価値を付ける提案を行いました。

通行料に加えプレミアムサービス料を支払うことで、高速道路の一部に埋め込んだ無線充電システムが利用可能となり、電気自動車は走行中に充電を行うことができるという論文では、従来の公共サービスの質を落とすことなく収益を確保する柔軟なアイデアと電気自動車の無線充電技術の活用という点が評価されました。

東京経済大学からは決勝進出を果たしたグループのほか、同じく石川ゼミから2つのグループが上位8チームに選ばれ奨励賞を受賞し、計3グループが入賞しています。



第14回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会で奨励賞を受賞

日刊工業新聞社などが主催する、学生による新事業ビジネスコンテスト「第14回キャンパスベンチャーグランプリ東京大会」セキネトシキで、関根敏葵さん（経営学部4年）のグループが奨励賞を受賞しました。

グループの代表を務める関根さんは、今年度1期に開講された特別講義「ビジネス創造」を履修し、関口和代教授（経営学部）、ゲスト講師の馬込正氏（独立行政法人中小企業基盤整備機構中小企業大学校東京校 BusiNest ビジネスコーチ）





指導のもと、新規事業開拓にまつわるノウハウを学びました。講義終了後はメンバーと協力し、「高齢者から子供へ伝える体験型教育事業」と題したビジネスプランでコンテストにエントリーしました。

関根さんのグループは、核家族化で3世代のつながりが希薄になっている社会問題を背景とし、退職後の高齢者が子どもに体験型の教育を行うビジネスプランを提案。10分間のプレゼンテーションと質疑応答で審査が行われ、「社会の需要をよく捉えている」と審査員の講評を受けました。

多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション 2017 で優秀賞獲得

公益財団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催する「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」が昭和記念公園花みどり文化センターで開催され、経営学部の山本聡ゼミ「御朱印班」が優秀賞に選ばれました。同じく山本ゼミから参加したもうひとつのチーム「東大和班」は、奨励賞を受賞。同コンペティションにおける山本ゼミの受賞は、2015年より3年連続となります。

プロネクサス懸賞論文で金ゼミ生が優秀賞受賞

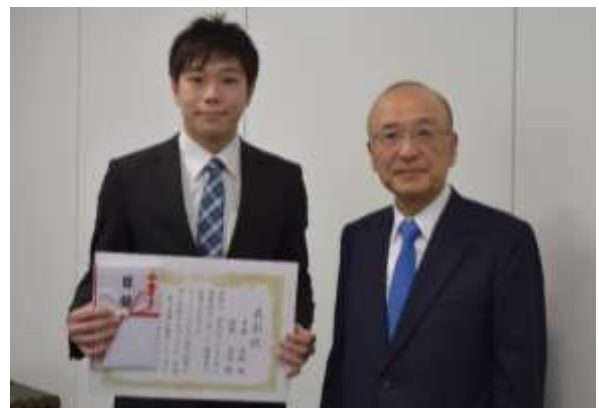
企業のディスクロージャー・IRにおける実務サポート提供の専門企業、株式会社プロネクサスが実施する「第9回プロネクサス懸賞論文」で、キムヒョンオク 金鉉玉ゼミに所属する ジュウミモトキ 十見元紀さん（経営学部4年）と シライアキノ 白井文乃さん（経営学部3年）の共同執筆論文が優秀賞として表彰されました。

上場企業のディスクロージャー・IRをより効果的なものにするための研究および提言というテーマのもと、「IFRS（国際財務報告基準）における連結財務諸表の比較可能性の進展に向けて」と題した論文は、日本基準とIFRS基準によって作成された上場企業の連結財務諸表の比較可能性に関する問題点の調査・検討を目的として書き上げられました。

十見さんと白井さんは2010年3月以降、IFRSを任意適用した97社をサンプル企業とし、IFRS導入前年度の日本基準による財務諸表と遡及適用として作成されたIFRS基準の財務諸表、IFRS導入年度、翌年度の財務諸表を対象に分析。報告書分量の増減、項目の増減、報告内容の変化などを事細かに調査し、IFRSでも「財務諸表の作成ガイドライン」を作成する必要性について提案しました。

審査委員長を務めた慶應義塾大学商学部の黒川行治教授は「IFRSへの移行時に2つの基準での財務諸表が存在することに気づき、それぞれを比較するという手法で個々の企業のデータを丁寧に収集し分析している点が素晴らしい」と講評しています。

この懸賞論文は大学生、大学院生、一般社会人、研究者から広く論文を募っており、今回の応募総数は15編でした。優秀賞を受賞した十見さんと白井さんのほか、東北学院大学、一橋大学大学院、東京大学の学生が佳作に選ばれました。





東経大インフォメーション

Information 1

R&I「学校法人格付」 東京経済大学は「A+」を獲得 2008年11月以降は「A+」「安定的」を維持

本学は2018年1月、格付投資情報センター（R&I）から「Aプラス（A+）」を取得しました。2008年11月以降、格付けは「A+」、格付けの方向性は「安定的」を維持していますが、格付投資情報センターは格付けの理由を以下のように挙げています。

- 経済、経営、コミュニケーション、現代法の4学部に加え大学院4研究科を有し、在籍学生数は約6800人。
- JR中央線特別快速停車駅の国分寺駅から徒歩圏にあり、キャンパスの立地は比較的良好。
- 教育や就職支援の面での面倒見の良さが評価されている。
- 2017年に公表した教学ビジョン「東経大チャレンジ2020」では、エデュケーション、キャリア、キャンパス、サポートの4つのクオリティを向上させ、チャレンジする学生を育てることをミッションに掲げている。
- 2017年度入試は総志願者が1万4000人を上回り、R&Iが重視する実志願者数も3年連続で増えた。
- 新たに開設した学部横断型のキャリアデザインプログラムも順調に志願者を集めた。
- 学生募集力は底堅い。
- 2016年度に学費改定を実施したことで収支も改善傾向にある。
- 国分寺キャンパス第1期整備事業や武蔵村山キャンパスのリニューアルに取り組んだが、良好な財務構成は維持されている。2020年に創立120周年を迎え、記念事業の一環として国分寺キャンパス第2期整備事業を計画している。投資額は決して小さくないが慎重に基本設計などを進めるとみられ、財務基盤に大きな悪影響はないと判断している。

Information 2

創立120周年記念サイト開設

新たな目標にチャレンジする学生たちの姿を映像で紹介

1900（明治33）年に前身である大倉商業学校（東京・赤坂葵町）が設立され、本学は2020年に創立120周年を迎えます。それに先立ち、2017年10月23日（月）の創立記念日に「120周年記念サイト」を公開しました。

「120周年記念サイト」は、これまでの歴史を「伝統と知性」「責任と信用」という2つのキーワードからひも解き、チャレンジする大学、学生たちのチャレンジする力へと脈々と続く「進一層」の姿を伝える内容となっています。



「学生たちのチャレンジする力～はじめて物語」では、伊藤伴^{バン}さん（経営学部4年）の国際山岳ガイドのライセンス取得に向けての取り組みや、山田真樹^{マキ}さん（コミュニケーション学部2年）のデフリンピックでのチャレンジ、新藤悠太郎^{シンドウユウタロウ}さん（経営学部2年）の2020年に公認会計士合格に向けてなど、本学学生が新たな目標に向かってチャレンジする姿を追う映像がご覧いただけます。また、教学ビジョン「東経大チャレンジ2020」の取り組みや創立120周年記念事業など、今後も随時、コンテンツを更新していく予定です。



東京経済大学 120 周年記念サイト <http://www.tku.ac.jp/120th/>

Information 3

会計プロフェッショナルプログラム合格状況速報

10年連続で公認会計士試験合格者を輩出

少数精鋭でより高度な資格や語学の取得にチャレンジする、東京経済大学独自のプログラム「会計プロフェッショナルプログラム」は、公認会計士や税理士、日商簿記検定1級、国税専門官を目指す学生をサポートするプログラムです。10年連続で公認会計士試験合格者を輩出するなど着実に実績を積み重ねています。

2017年度の資格取得実績	
公認会計士試験 合格	在学生1名(経営学部3年)、卒業生3名
公認会計士「短答式」合格	在学生3名(経営学部2年×2名、3年×1名)、卒業生1名



Information 4

東京経済大学で「高校選抜卓球大会 in 多摩」を開催

56回目を迎えた歴史あるイベントで、今年も高校生が躍動！

東京経済大学が主催し、本学体育会卓球部が運営する「第56回高等学校選抜卓球大会 in 多摩」が2018年1月7日（日）、本学100周年記念館で開催されました。国分寺市の協賛を得て行われるこの大会は、高校生が参加する競技を大学生が運営するという珍しいイベントです。第50回記念大会以降は多摩地区の高校に加え、隣接地域の神奈川、埼玉、山梨の高校も参加するようになり、伝統ある大会としても知られます。

男子50校167名、女子25校70名、合計75校237名が参加した今大会の結果は以下の通りです。



第56回高等学校選抜卓球大会 in 多摩	
男子の部	
優勝	北澤健太郎(早稲田実業高等部)
準優勝	野地哲平(明治大学附属中野八王子高校)
3位	香取利熙(湘南工科大学附属高校)、幾石光(桐朋高校)
女子の部	
優勝	千田佳歩(早稲田実業高等部)
準優勝	松寄夕夏(東海大学菅生高校)
3位	河野仁音(東海大学菅生高校)、金谷好恵(湘南工科大学附属高校)

Information 5

コミュニケーション学研究科修了生の著書が広報学会賞を受賞

広報初学者にとって親しみやすくわかりやすい。日本広報学会が評価

東京経済大学大学院コミュニケーション学研究科を2016年3月に修了された河西仁氏（カサイヒトシミアキス・アソシエイツ合資会社代表）の著書『アイビー・リー 世界初の広報・PR業務』（同友館2016年10月刊）が、第12回日本広報学会賞の教育・実践貢献賞に選ばれました。

日本広報学会は「本書はリーの人物像と活動を平易に描いており、特に広報初学者にとって親しみやすくわかりやすい」ことなどを受賞理由として挙げています。



河西氏は、それまでにご自身で培ってきた広報・PRについての知識と経験を整理する目的で、本学のシニア大学院制度を利用し2014年にコミュニケーション学研究科に入学しました。コミュニケーション学研究の第一人者である駒橋恵子コミュニケーション学部教授のもと、PRの父と呼ばれながらも日本では文献が少なかったアイビー・リーの研究を重ね、研究論文の発表、著書の出版に至りました。

河西氏は同賞の受賞について「修士論文を元にした拙著が広報PRの専門学会で評価されたことを大変うれしく思います。20世紀初頭のアメリカで本格的に始まった広報（パブリック・リレーションズ=PR）という仕事は、メディアの主役が新聞や雑誌からインターネットに変わっても、その業務内容は昔も今もほぼ同じです。その広報PRの仕組みを体系化し、職業として確立したのが本書の主人公であるアイビー・リーです。コミュニケーションに関心ある方は、ぜひご一読ください。出版にご尽力くださった駒橋恵子先生に、改めて感謝申し上げます」とコメントしました。

Information 6

スポーツ界で活躍する卒業生たち

ニューイヤー駅伝、ジャパンエクスボウルに本学出身選手が出場

2018年の最初を飾ったニューイヤー駅伝（全日本実業団対抗駅伝競走大会）に、2010年に本学経営学部を卒業した柱欽也さんと、2012年に現代法学部を卒業した槻澤翔さんが出場しました。2人が所属する警視庁チームは33位と目標の25位には届かなかったものの、4区と5区では本学陸上競技部出身選手による襷リレーが実現しました。

また、2017年12月に東京ドームで行われた第31回アメリカンフットボール日本社会人選手権「ジャパンエクスボウル」に、本学アメフト部出身でIBMビッグブルーに所属する伊藤隆貴さん（2017年経営学部卒）が出場しました。大学入学後にアメリカンフットボールを始めた伊藤さんですが、俊足を武器に頭角を現し、今ではXリーグで一目置かれる選手となっています。



柱 欽也さん(左)

槻澤 翔さん(右)

